口頭発表「飼育動物の学年飼育に取り組んで」

丸山 久美子* 四海 小夜子** 菅井 沙弥香**（担当 東京都獣医師会 野村道之）

本校では，学校にいる飼育動物を「命のある柳沢小学校の仲間」として全校児童に知ってもらいたい，認識してもらいたい，ふれあって欲しいという願いから，委員会活動の一環としての活動から３年生の「学年飼育」に切り替えることにしました．何もかも初めてづくしの学年飼育．はてさてどうなることやら．試行錯誤の連続の日々を報告します．

１ 学年飼育になるまでの経緯

本校の飼育動物の世話は，昨年度まで５・６年生の委員会活動の一環として行っていました．しかし，飼育委員会活動として飼育動物を世話することの悩みとして次のようなものが上げられていました．

① 飼育小屋が遠くて大変．
② 世話をする時間が，中休み，昼休みにな るが実際にはなかなか時間がとれない．
③ どうしても，子ども任せになりがちで，十分世話が行き届かない
④ 全校児童が飼育動物にあまり関心を示さない．

私たちの願いは，つぎのものでした．

> 学校にいる飼育動物を「命のある柳沢小学校の仲間」として全校児童に知ってもらいたい、認識してもらいたい、ふれあって欲しい

そこで，学校に訪問指導に来てくださる獣医さんに相談をしました．本校の飼育小屋の実情をふまえた上で獣医さんは，他校の例を引きながら「学年飼育」の有用性を教えてくださいました．また，動物にふれあう年齢としては，小学校では３年生が望ましいのではないかということでした．いままで５・６年生が行っていたことを果たして３年生ができるのだろう過，４年生の方がプレ委員会活動として望ましいのではないか等の声も上がり，ずいぶん検討を重ねました．結局，担当の学年は，発達段階からすると３年生がよいのではというアドバイスと総合的な学習の時間の命の学習としての基本単元を模索していたこともあり，思いきって３年生に決めました．

２ 初めての動物とのふれあい

それまで，飼育動物に殆ど触れてこなかったので，２年生の３学期に獣医さんのご協力をいただき，生活科の時間に学年として「うさぎとにわとりのふれあい教室」を実施しました．教室の中に初めて連れてこられたウサギ２羽とにわとり６羽．箱の中でばたばた暴れていました．「動物もとても怖がっているの．だから大丈夫．大丈夫といってあげるのよ．」との獣医さんのお話に真剣に聞き入る子どもたち．初めて間近に動物を見て，説明を聞き，実際に抱き方を教わって，順番にうさぎやにわとりを抱きました．初めは怖がっていた子どもたちも，触れ合いを通して，動物に興味を持ったようでした．

○生きている．
○あたたかい．
○心臓の音始めて聞いた．
○こわい．

3　授業での取り組み

○テーマ　　命の大切さ

○教科　　総合的な学習の時間

テーマ	実施	授業内容
飼育を始めよう	４月	獣医の先生に飼育のやり方をを聞く．
名前をつけよう	５・６月	特徴をとらえて名前を付ける．
伝え合おう・教え合おう	６月	うさぎ，にわとりの当番交代にあたって世話の仕方，気づいたことを伝えあう．
命の学習	６月	にわとりの「くろっぴ」が死んだ． 命についてみんなで考え，話し合い 「くろっぴ」とお別れをする．
質問しよう，だっこしよう	７月 10月	飼育を始めてから出てきた疑問を集め，獣医の先生にまとめて，回答してもらう．だっこしてふれあう．
当番日誌をつけよう	７月	日誌に入れる項目はどんなものがいいか，みんなで考え，決めた．
飼育の感想	10月	今までの飼育を振り返って，動物の様子や自分の気持ちの変化を作文に書き表す．
ニワトリとウサギについてまとめよう	11月～12月	にわとりとうさぎについて分かったことや調べたことをまとめる．
２年生に引き継ぎ集会をしよう	２月	次年度担当する２年生に，世話の仕方や自分たちの分かっていることを伝える．
２年生と一緒にお世話をしよう	２月～３月	２・３年がそれぞれグループ毎に担当して，当番のやり方を教えていく．

4　①飼育を始めよう

4月，いよいよ学年飼育が始まりました．獣医さんと飼育小屋の環境についてご相談をし，改善点を上げました．予算面もあり出すぐにはできませんでしたが，徐々に改善を加えていきました．一番大きな改善点は，ウサギを校舎の中のゲージ飼いにしたことです．理由は，いつも，児童の目に触れるところに置きたい，世話の時間の短縮です．その後，小さいゲージでは，狭くてかわいそうではないかということから，サークルの中のゲージ飼いに変更しました．ウサギは，校舎内で，にわとりは，校庭の隅にある飼育小屋で世話をすることにしました．初めにさんに世話の仕方を教わり，クラスでも確認し，いよいよグループごとに世話が始まりました．でも一度聞いたくらいではなかなかすぐにはできません．「くさい，汚い，さわりたくない」との理由から積極的に関われない子どももいました．また，主に掃除中に世話をするため担任がつきっきりで指導ができないため，主事さん方にも協力してもらうことになりました．そして，毎日世話をする中でだんだんやり方にも慣れ，ウサギや鶏に対しても強い愛着を示すようになりました．

②名前を付けよう

愛着が出てきたところで「名前をつけよう」という授業をしました．デジカメで写真を撮り，それぞれの動物の特徴を捉え，その特徴を生かした名前を一人一人が考え，みんなで投票して決めました．

③質問しよう　だっこしよう

飼育を始めてから３ヶ月．いろいろ出てきた疑問をまとめて獣医の先生にお聞きしました．

＜でてきた疑問＞

○ピッピーとパンナは，なぜ一緒にするとけんかするんですか．

○何で新聞紙をやぶいたりするんですか．

○新聞紙を食べているけど大丈夫ですか．

○黄色い尾疾呼は大丈夫ですか．

○にわとりは，足がはやいですか．など

いままで，怖がってなかなか抱けなかった子どもも全員抱くことができるようになりました．

5　慣れてきた飼育当番・動物も変わった

学級ごとに４週間交替でうさぎ，にわとりと世話をしていきます．時間は，主に掃除の時間あるいは，給食の用意の時間にグループごとにしています．はじめは，担任がつきっきりで教え，一緒にやらなければなりませんでしたが，子どもたちは次第に手際が良くなり短時間でできるようになってきました．そのように世話を続けていくうちに動物もずいぶん変わってきたのです．

○顔が穏やかになった

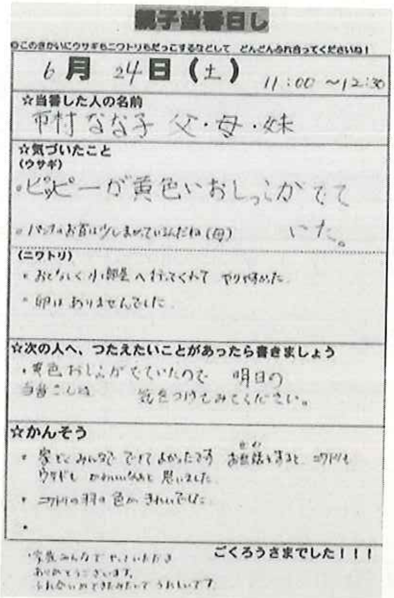
○毛並みがよくなった

○はじめは，子どもたちから逃げていたにわとりが，お掃除にいくと，自分たちから自然と別の小屋に入るようになった

○うさぎも子どもや人の気配がするとよってくるようになった

6　全員参加の親子飼育当番

「土，日も世話をする．」を基本とし，「親子飼育当番」を６月からスタートさせました．希望を取り，全員年間に１回の割り当て表を作りました．長期休業中は，別に希望者を募って割り当て表を作りました．協力を得られるか半信



親子当番日し

○このきかいにウサギもニワトリもだっこするなどして　どんどんふれ合ってくださいね！

6月　24日（土）　11:00 ～12:30

☆当番した人の名前

中村なな子　父・母・妹

☆気づいたこと

（ウサギ）

・ピッピーが黄色いおしっこがでていた。

（ニワトリ）

・おとなしく小部屋へ行ってくれて　やりやすかった。

・卵はありませんでした。

☆次の人へ、つたえたいことがあったら書きましょう

・黄色おしっこがでていたので　明日の当番さんは　気をつけてみてください。

☆かんそう

・家でもみんなでできてよかったです　お世話をすると　ニワトリもウサギもかわいいなぁと思いました

・ニワトリの羽の色がきれいでした

ごくろうさまでした！！！

半疑でしたが，幸い大変協力的で夏休みも冬休みも全部希望者で埋めることができました．

①親子飼育当番割り当て表

②当番の仕方を書いたもの

③親子飼育当番日誌

保護者の方は，協力的で，親子飼育当番にかかわってくださいました．

「親子の会話が増えた．」

「思ったより大変で子どもの苦労がわかった．」

「かわいさが増した．」・・・などの感想が日誌に書かれていました．

7　にわとり　くろっぴの死（命の授業）

「先生，大変，くろっぴの様子がおかしい．」くろっぴの異変を最初に発見したのも子どもたちでした．すぐに獣医さんに連絡をし，診察をしていただきました．しばらく入院という状況に子どもたちは，大変心配しました．病院の前までいき「早く治りますように．」とお祈りをしてきた子どももいました．しかし，みんなの祈りもむなしくくろっぴは死んでしまいました．そこで私たちは大変迷いました．「くろっぴの死をどのように伝えるのか．」「死んだクロッピを見せるべきか否か．」・・・そこで獣医さんのご協力もいただいて「命の授業」をしました．思いがけず２時間の授業になりましたが，子どもたちが「くろっぴの死」に真剣に向き合い，「お別れにくろっぴに何をしてあげたらよいか．」などくろっぴの立場に立って話し合っている姿を見て私たちも涙が止まらなくなりました．お別れは，くろっぴを全員でなでて

あげ，一人一人が書いた手紙と一緒に埋葬し，動物霊園のお墓に入れてあげることになりました．

8　子どもの作文

子どもたちの作文を紹介します．

うさぎとにわとり　　　N子

私が始めてにわとりとうさぎにさわった時は，暴れて（こわいな～にわとりとうさぎもこわいのかな.）と思いながらさわっていました．でも獣医さんの言うとおりに抱いてみると暴れるのをやめておとなしくなってわたしもだんだんかわいく思えて，早く飼育をやりたいと思いました．３年生になって飼育が始まりました．最初に掃除をしたり，分を取ったりするのを見て（こんなことするんだ～ちょっとやだな.）と思ったけど，やってみると楽しくてにわとりとウサギが気になるようになりました．

（後略）

ウサギとにわとりの１年間　　　T男

ぼくのはじめての飼育の授業は，先生から「動物をさわります.」と言われていたのですごくドキドキしていました．かまれないかな・・・けとばされないかな・・・という気持ちでいっぱいでした．だけどにわとりが落ち着いていたのでこっちも落ち着いてなでることができました．にわとりは人間と違い目の父は横になり，目の後ろに耳がありました．３年生，はじめての飼育当番です．１組がにわとり，２組がウサギでスタートしました．一生懸命世話してきたけど６月にくろっぴが死んでしまいました．死んでしまうと温かくやわらかかったくろっぴが冷たく固くなっていました．（後略）

9　成果と課題

何もかも初めての中でやってきた３年生の学年飼育．１日たりとも欠かすことができません．はじめは，本当に怒濤のような毎日でした．しかし，子どもたちは，確実に変わっていきました．

＜成果＞

○飼育動物について関心と愛情を持つことができた．

○くろっぴの死を間近に見ることで，命の大切さを実感することができた．

○世話をする大変さを経験することにより，「生きているものを育てる」ことを実感することができた．

○ちゃんと世話をすることで動物が変化することがわかった．

＜課題＞

○この世話の仕方を，次の学年に引き継いでいくこと．

○他学年にも動物をかわいがる気持ちを広げていくこと．

→３学期，２年生への引き継ぎ集会を行い，合同で飼育活動を行います．また，活動をまとめた物を掲示して全校にも知らせていく．

今年度，大変ではありましたが３年生の学年飼育を行えたのは，何と言っても獣医さんのお力のおかげです．何か困ったことが起きたといってはお電話で伺ったり，具合が悪いといってはすぐ見ていただいたりしました．また，保護者の方々に協力をいただいたこと，学校全体でも主事さんや警備員さんのご協力をいただけたことも大きな力となりました．私たちも子どもたちと一緒に飼育を経験することにより今まで見えていなかったものが見えてきたように思います．これからもよりよい形での飼育のあり方を考えていきたいと考えます．

（＊西東京市立柳沢小学校校長）
（＊＊西東京市立柳沢小学校教諭）